

令和5年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」
オリエンテーション合宿 in 国立中央青少年交流の家

Take the first step

開催要項



1. 趣 旨

ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力を身に付けさせる。また、多様な人々と協働しながら地域・社会にある課題解決に向けた取組を行うことで、郷土や自然に愛着を持ち、新たな価値を創造する人材を育成する。

2. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家

3. 期 日 令和5年7月15日(土)・16日(日)・17日(月・祝) 2泊3日
(原則宿泊としますが、希望者は日帰りでの参加も認めます。)

4. 会 場 国立中央青少年交流の家及び御殿場市周辺

5. 対 象 高校生

6. 募集人数 30名程度

7. 持 ち 物 活動しやすい服装 筆記用具 雨具(レインウェア) 昼食 参加費
帽子 飲料水(フィールドワークもありますので、十分な用意をお願いします。)
【宿泊者】着替え 上履き タオル
洗面用具(浴室には石鹸・シャンプー等の備え付けはありません。)

8. 参加費 5,400円(食費6食分(7/15夕~7/17昼)・シーツ等洗濯料・傷害保険料など)
【日帰り】700円(傷害保険料及び雑費。昼食代は含まれておりませんので各自ご用意ください。希望者は16日・17日の昼食はレストランで食事をすることもできます。(1食720円))

9. オリエンテーション合宿 講義等日程

	7月15日(土)	7月16日(日)	7月17日(月・祝)
8:30~8:50	受付		
8:50~9:00	開講式		
9:00~9:50	ガイダンス	講義・演習② 「課題解決の基礎」	講義・演習④ 「行動計画の基礎」
10:00~10:50	講話 「地域づくりの実践」		
11:00~11:50	昼食・休憩	昼食・休憩	
12:00~12:50		フィールドワーク② 「地域課題の探究」	昼食・休憩
13:00~13:50	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」		講義・演習④ 「行動計画の基礎」
14:00~14:50			発表②
15:00~15:50	講義・演習① 「地域理解」	講義・演習③ 「地域課題の探究」	
16:00~16:50			実践活動のためのガイダンス
17:00~17:50		発表①	閉講式

※青→導入(4科目7単位時間) 緑→探究のプロセス(4科目8単位時間) 赤→地域課題の取組(3科目7単位時間)

※1単位時間=50分

【7月15日（土）】

◆ガイダンス〔アイスブレイク含む〕（9:00～9:50 1単位時間）

⇒全国高校生体験活動顕彰制度の説明を受けるとともに、オリエンテーション合宿のスケジュールを確認する。

◆講話「地域づくりの実践」（10:00～10:50 1単位時間）

⇒昨年度オリエンテーション合宿に参加し、全国ステージにおいて文部科学大臣賞を受賞した学生の取組を聴くことにより、地域づくりを実践していくための意欲を高める。

◆フィールドワーク①「地域の魅力を発見」（12:00～14:50 3単位時間）

⇒地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。

◆講義・演習①「地域理解」（15:00～16:50 2単位時間）

⇒グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深める。

【7月16日（日）】

◆講義・演習②「課題解決の基礎」（9:00～10:50 2単位時間）

⇒フィールドワーク①において参加者一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイディアによる仮説（解決策）を立て、グループ全員で共有する。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討する。

◆フィールドワーク②「地域課題の探究」（12:00～13:50 2単位時間）

⇒講義・演習②で立てたグループ内一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動（解決策）を探ったりするための取組を行う。

◆講義・演習③「地域課題の探究」（14:00～16:50 3単位時間）

⇒フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索し、発表①（グループ発表）の準備を行う。

◆発表①〔グループ発表〕（17:00～17:50 1単位時間）

⇒講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行う。

【7月17日（月・祝）】

◆講義・演習④「行動計画の基礎」（9:00～13:50 4単位時間 ※途中昼食休憩含む）

⇒オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成するとともに、発表②（個人発表）の準備を行う。

◆発表②〔個人発表〕（14:00～15:50 2単位時間）

⇒個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有する。

◆実践活動のためのガイダンス（16:00～16:50 1単位時間）

⇒実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解する。

10. フィールドワーク コース概要

A 御殿場市コース① 【講師：阿山 恭弘 氏（株式会社時之栖 常務取締役）】

富士山のふもとにある御殿場市は、観光名所も多い。そのような御殿場市の魅力を発信し、多くの人が足を運んでくれるように、ホテルや旅館は、様々な努力をしている。フィールドワークを通して、御殿場市の魅力発信についての課題や取組を探究する。

B 御殿場市コース② 【講師：荒井 仁 氏（有限会社荒井友吉商店）】

明治時代以降、静岡県は日本一の茶処として、日本の茶業をリードしてきた。御殿場市でも、冷涼な気候を生かし、茶業が盛んに行われ、お茶は地域の人々の生活にも深く関わってきた。近年、国際化や人口増加に伴い、世界のお茶消費量はますます増加している。しかし一方で、茶業の担い手不足や消費トレンドの変化への対応など課題も多い。フィールドワークを通して、御殿場市の茶業の魅力と抱えている課題を発見し、課題解決を探究する。

C 御殿場市・小山町コース 【講師：岡田 美幸 氏（株式会社ノースゲイト 副社長）】

【講師：高橋 頼太 氏（社会福祉法人 婦人の園 理事長）】

2012年の『障害者総合支援法』などの法整備、さらには2014年の『国連・障害者権利条約』の締

結国加入などにより、我が国の障害者福祉に係わる予算も増え、環境も整いつつある。しかしその一方で、障害者工賃は非常に低く、自立への後押しになっていない。フィールドワークを通して、障害者福祉を知り、現代社会が抱える課題を改善できる取組を探究する。

D 裾野市コース 【講師：宮坂 里司 氏 (NPO 法人みらい建設部 事務局)】

裾野市は豊かな自然と製造業をはじめとした産業が調和した都市として発展してきた。さらに発展に伴う就業構造の変化や技術（産業）の革新は、暮らしに豊かさと変化をもたらした。一方で、新たな課題も生まれている。近年、全国的な問題となっている放置竹林の増加もその一つである。フィールドワークを通して、地域課題の見方を変えることで、地域の新たな魅力を生み出す取組を探究する。

11. 申込方法

【申込期間】 令和5年6月5日（月）～6月30日（金）

（応募者多数の場合には抽選とさせていただきます。その場合の抽選結果につきましては、7月4日（火）までにメールで連絡させていただきます。ご理解のほどよろしくお願いたします。また、参加決定者には後日メールを送信いたしますので、受信をご確認ください。）

【申込方法】 右記QRコードからお申込みください。



12. その他

- (1) 詳細な内容は、7月5日（水）までにご案内いたします。
- (2) 天候等により、活動内容が変更または延期等となる場合もございます。予めご承知おきください。

13. 問い合わせ先（ご不明な点については、下記担当までご連絡願います。）

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家
〒412-0006 静岡県御殿場市中畑 2092-5 TEL : 0550-89-2020 FAX : 0550-89-2025
E-mail : fujinosato-kss@niye.go.jp 「Take the first step」担当：間瀬・鈴木(俊)・高瀬

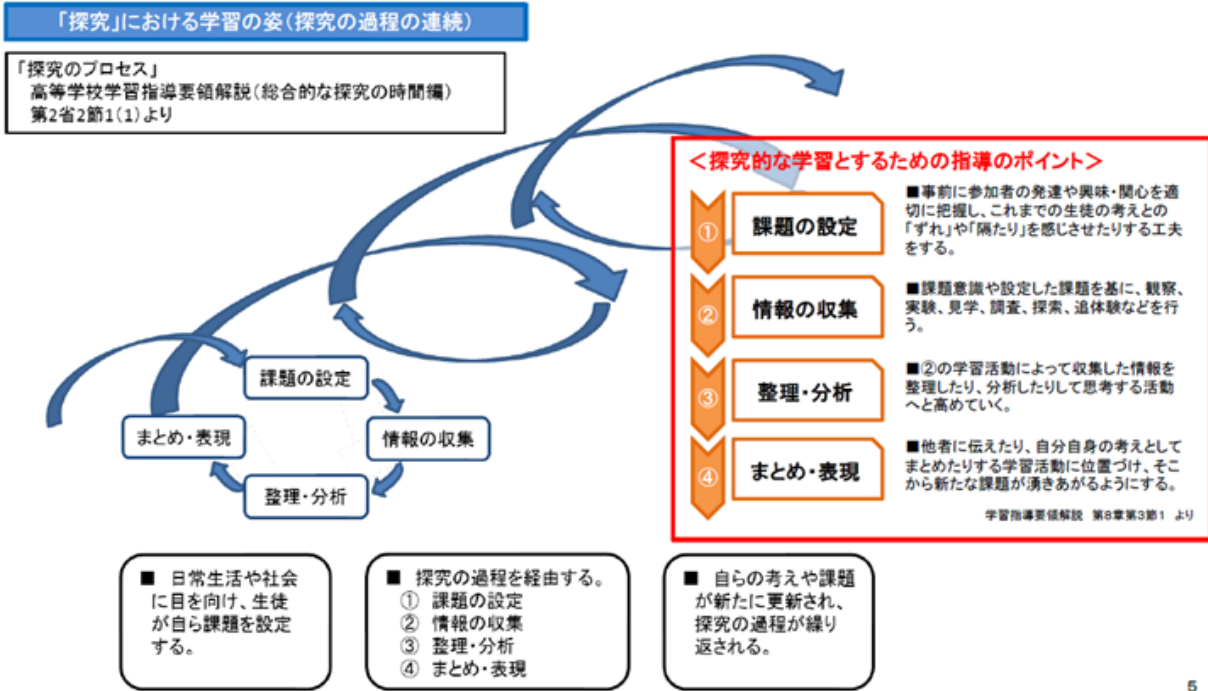
2015年の国連サミットで、全会一致で採択された2030年までの国際目標「持続可能な開発目標 (SDGs)」の達成を目指し、国立中央青少年交流の家は、率先して推進活動に取り組んでいきます。



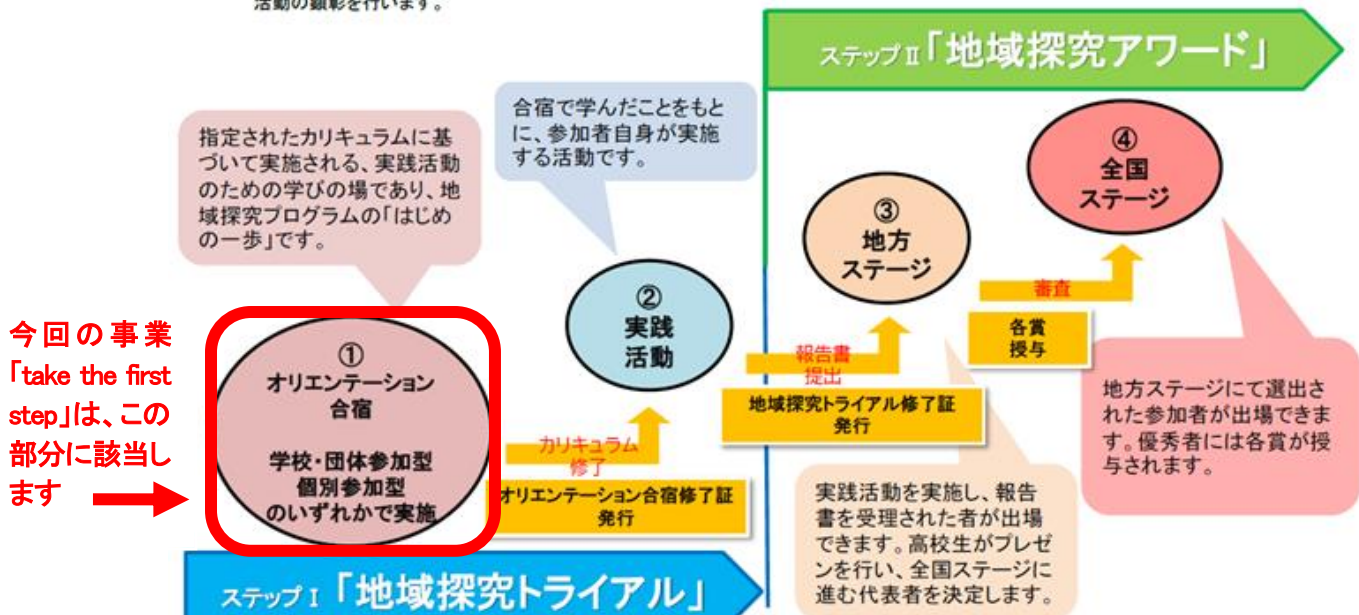


全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」の概要

地域探究プログラムでは、今回の学習指導要領の改訂に伴って名称が変わった「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れています。



「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



今回の事業「take the first step」は、この部分に該当します →

※定点の評価を設けることで、個々人の状況や進度に応じた評価ができる仕組みとしています。